

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	中国財務局長
【提出日】	2019年8月8日
【四半期会計期間】	第68期第1四半期（自 2019年4月1日 至 2019年6月30日）
【会社名】	寿スピリッツ株式会社
【英訳名】	Kotobuki Spirits Co., Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 河越 誠剛
【本店の所在の場所】	鳥取県米子市旗ヶ崎2028番地
【電話番号】	0859(22)7477(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役経営企画部長 松本 真司
【最寄りの連絡場所】	鳥取県米子市旗ヶ崎2028番地
【電話番号】	0859(22)7477(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役経営企画部長 松本 真司
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第67期 第1四半期連結 累計期間	第68期 第1四半期連結 累計期間	第67期
会計期間	自2018年4月1日 至2018年6月30日	自2019年4月1日 至2019年6月30日	自2018年4月1日 至2019年3月31日
売上高 (千円)	8,601,141	10,626,625	40,768,893
経常利益 (千円)	835,161	1,567,450	6,012,220
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益 (千円)	510,106	1,022,630	3,972,228
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	516,184	1,006,689	3,912,278
純資産額 (千円)	14,898,307	18,056,225	18,294,322
総資産額 (千円)	21,540,156	25,396,157	25,953,533
1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	16.39	32.86	127.64
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	69.2	71.1	70.5

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 経営成績の状況

当第1四半期連結累計期間における当社グループを取り巻く事業環境は、改元に伴うゴールデンウィーク10連休など明るい話題が見られた一方、本年10月に予定されている消費税率引き上げによる消費マインドの悪化懸念など、先行き不透明感の高まりから個人消費は力強さを欠く状況で推移いたしました。また、業種・業態を超えた競争の激化や人材不足に伴う人件費の上昇などにより、総じて厳しい事業環境が続いております。

このような状況のもと、当社グループは、『超 超絶 WSR!! (1)』を2019年の経営スローガンに掲げ、主力ブランド及び主力商品の育成に向け、商品力、販売力・営業力、売場力のレベルアップによる現場力の向上に引き続き注力いたしました。また、顧客層の拡大に向け、新ブランド・新業態・新商品開発を推進いたしました。更に、当面の重点施策であります、「GTS (グレート・トランスフォーメーション・サクセス) (2)」、「インバウンド対策の強化」、「海外展開 (海外における事業モデルの構築)」、「首都圏でのWSR化展開の推進」の4つのテーマに、スピード感を持って取り組みました。

製造面では、品質及び衛生管理の一層の強化を図るとともに、設備投資による増産体制の構築及び生産性の向上に対処いたしました。

以上の取り組みにより、当第1四半期連結累計期間の売上高は、重点施策の遂行が奏功したことに加え、活況を呈した大型連休も追い風となり10,626百万円 (前年同期比23.5%増)となりました。利益面におきましても、増収効果に加え、売上総利益率が前年同期に対して3.2ポイント増加したことなどにより、営業利益は1,554百万円 (前年同期比87.4%増)、経常利益は1,567百万円 (前年同期比87.7%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は1,022百万円 (前年同期比100.5%増)となりました。

1 WSR (ダブルエスアール)とは、グループ経営基本方針として2015年に掲げた経営スローガン『ワールド サプライジング リゾート (World Surprising Resort) 宣言』の略称であり、商品・店舗・接客・営業活動など、あらゆるビジネスのシーンで「世界へ、ありえないほどの驚きの、非日常 (超感動) を提供する」という意味が込められています。

2 「GTS」とは、『Great Transformation Success』=「大転換による成功」を意味し、スピードとエネルギーを象徴する言語として命名しております。

セグメント別の経営成績は次のとおりであります。

シュクレイ

首都圏での多ブランド展開に注力しているシュクレイは、新規出店効果や既存店の販売強化などにより直営店売上が好調に推移いたしました。また、営業強化などにより国際線ターミナル免税売店や駅売店などでの卸売上も伸びました。なお、直営店の出店及び退店におきましては、本年4月に「洋菓子のフランセ」の新業態店「レモンショップ by FRANCAIS」を小田急新宿駅西口地下構内に、「キャラメルゴーストハウス」の新業態「キャラメルゴーストパーティー」をキラリナ京王吉祥寺にそれぞれ出店し、また、同年6月には、東京ミルクチーズ工場「Cow Cow Kitchen」をアトレ秋葉原に出店するなど計3店の出店及び1店の退店を実施いたしました。その結果、売上高は3,625百万円 (前年同期比33.4%増)、営業利益は547百万円 (前年同期比109.9%増)となりました。

ケイシイシイ

「ルタオ」ブランドを擁するケイシイシイは、商品面では、販売強化により、「ドゥーブルフロマージュ」や「小樽色内通りフロマージュ」などの主力商品が堅調に推移いたしました。販売チャネルでは、インバウンド対策として注力しております国際線ターミナル免税売店での卸売上が好調に推移したことに加え、通信販売がロイヤルカスタマー対策や限定商品投入などの対策強化などにより伸びました。その結果、売上高は2,877百万円 (前年同期比15.0%増)となり、営業利益は250百万円 (前年同期比3.2%増)となりました。

寿製菓・但馬寿

寿製菓・但馬寿は、山陰地区では主力商品「因幡の白うさぎ」及び新製品の販売強化や、代理店向けでは、新商品企画などの提案営業強化に注力したことにより、山陰地区及び代理店向け卸売上が好調に推移いたしました。また、前連結会計年度に実施しましたグループ向け生産の一部を他のグループ製造拠点に移管した減収要因も薄らぎました。その結果、売上高は2,690百万円（前年同期比12.4%増）、営業利益は347百万円（前年同期比69.9%増）となりました。

販売子会社

販売子会社は、東海地区において、昨年11月に新店しました伊勢神宮内宮前での新規出店効果や改元祝賀ムードも追い風となり、主力商品「伊勢奉祝えびせんべい」が好調に推移いたしました。関西地区では、本年4月に新ブランド「ビスポッケ」神戸本店を立上げ、同年5月にあべのハルカス近鉄本店に新規出店を行いました。その結果、売上高は1,606百万円（前年同期比19.2%増）、営業利益は162百万円（前年同期比63.9%増）となりました。

九十九島グループ

九十九島グループは、テーマパーク向けOEM生産の中止、製造ライン新設によるグループ向け売上の増大など前連結会計年度に実施した製造採算の改善に向けた取り組みが奏功しました。また、フレンチトースト専門店「アイポリッシュ」において新商品「フレンチトーストフィナンシェ」を投入したことにより催事売上が堅調に推移いたしました。その結果、売上高は1,059百万円（前年同期比52.4%増）、営業利益は101百万円（前年同期は営業損失95百万円）となりました。

その他

その他は、損害保険代理業、健康食品事業、海外（台湾及び香港）における菓子事業が含まれており、売上高は257百万円（前年同期比321.5%増）となり、営業損失は29百万円（前年同期は営業損失20百万円）となりました。

なお、「その他」には、当第1四半期連結累計期間より前連結会計年度に連結の範囲に含めましたHoney Sucrey Limited（香港）が含まれております。

(2) 財政状態の状況

当第1四半期連結会計期間末における総資産は、25,396百万円となり、前連結会計年度末に比べ557百万円減少いたしました。主な要因は、受取手形及び売掛金の減少（946百万円）、現金及び預金の減少（172百万円）、建設仮勘定の減少（112百万円）、商品及び製品の増加（140百万円）、流動資産におけるその他の増加（287百万円）、建物及び構築物（純額）の増加（182百万円）などの要因によるものです。

負債は7,339百万円となり、前連結会計年度末に比べ319百万円減少いたしました。主な要因は、流動負債におけるその他の増加（1,274百万円）、未払法人税等の減少（682百万円）、未払金の減少（398百万円）、賞与引当金の減少（346百万円）などの要因によるものです。

純資産は18,056百万円となり、前連結会計年度末に比べ238百万円減少いたしました。主な要因は、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上による増加（1,022百万円）、配当金の支払いによる減少（1,244百万円）などの要因によるものです。

この結果、自己資本比率は、前連結会計年度末に比べ0.6ポイント増加の71.1%となり、1株当たり純資産は580円22銭となりました。

(3) 事業上及び財政上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間における研究開発費の総額は、12,067千円であります。

なお、当第1四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(5) 従業員数

当第1四半期連結累計期間において、当社グループの従業員数に著しい増減はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	91,200,000
計	91,200,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末現在発行数(株) (2019年6月30日)	提出日現在発行数(株) (2019年8月8日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	31,121,520	31,121,520	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数100株
計	31,121,520	31,121,520	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
2019年4月1日~ 2019年6月30日	-	31,121,520	-	1,217,800	-	550,269

(5)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(2019年3月31日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

2019年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 1,800	-	-
完全議決権株式(その他)(注)	普通株式 31,115,400	311,154	-
単元未満株式	普通株式 4,320	-	-
発行済株式総数	31,121,520	-	-
総株主の議決権	-	311,154	-

(注) 「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が18,000株含まれております。また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数180個が含まれております。

【自己株式等】

2019年6月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
寿スピリッツ株式会社	鳥取県米子市旗ヶ崎 2028番地	1,800	-	1,800	0.00
計	-	1,800	-	1,800	0.00

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（2019年4月1日から2019年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（2019年4月1日から2019年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,659,617	5,487,378
受取手形及び売掛金	4,897,052	3,950,992
商品及び製品	1,669,636	1,810,089
仕掛品	84,750	92,298
原材料及び貯蔵品	560,709	599,241
その他	331,526	619,225
貸倒引当金	845	766
流動資産合計	13,202,445	12,558,457
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	4,264,236	4,446,690
機械装置及び運搬具(純額)	2,559,283	2,545,164
工具、器具及び備品(純額)	455,669	469,888
土地	2,887,139	2,887,139
リース資産(純額)	2,640	2,061
建設仮勘定	222,010	109,202
有形固定資産合計	10,390,977	10,460,144
無形固定資産		
投資その他の資産	158,089	154,912
その他	2,208,878	2,229,500
貸倒引当金	6,856	6,856
投資その他の資産合計	2,202,022	2,222,644
固定資産合計	12,751,088	12,837,700
資産合計	25,953,533	25,396,157
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,336,926	1,196,889
1年内返済予定の長期借入金	252,729	252,729
未払金	1,373,043	974,058
未払法人税等	1,229,875	547,818
賞与引当金	795,680	448,781
ポイント引当金	10,832	14,926
その他	805,132	2,079,903
流動負債合計	5,804,217	5,515,104
固定負債		
長期借入金	180,017	119,918
退職給付に係る負債	1,473,259	1,504,225
その他	201,718	200,685
固定負債合計	1,854,994	1,824,828
負債合計	7,659,211	7,339,932

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,217,800	1,217,800
資本剰余金	1,323,161	1,323,161
利益剰余金	15,800,192	15,578,036
自己株式	2,063	2,063
株主資本合計	18,339,090	18,116,934
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	21,233	12,839
為替換算調整勘定	27,188	36,434
退職給付に係る調整累計額	38,813	37,114
その他の包括利益累計額合計	44,768	60,709
純資産合計	18,294,322	18,056,225
負債純資産合計	25,953,533	25,396,157

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)
売上高	8,601,141	10,626,625
売上原価	3,761,123	4,307,019
売上総利益	4,840,018	6,319,606
販売費及び一般管理費	4,010,085	4,764,666
営業利益	829,933	1,554,940
営業外収益		
受取利息	212	18
受取配当金	3,427	3,463
受取地代家賃	4,669	5,156
その他	5,178	9,883
営業外収益合計	13,486	18,520
営業外費用		
支払利息	825	495
持分法による投資損失	2,397	-
その他	5,036	5,515
営業外費用合計	8,258	6,010
経常利益	835,161	1,567,450
特別利益		
固定資産売却益	259	15
特別利益合計	259	15
特別損失		
固定資産除却損	4,080	1,063
特別損失合計	4,080	1,063
税金等調整前四半期純利益	831,340	1,566,402
法人税等	321,234	543,772
四半期純利益	510,106	1,022,630
親会社株主に帰属する四半期純利益	510,106	1,022,630

【四半期連結包括利益計算書】
 【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)
四半期純利益	510,106	1,022,630
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	5,320	8,394
為替換算調整勘定	302	9,246
退職給付に係る調整額	699	1,699
持分法適用会社に対する持分相当額	361	-
その他の包括利益合計	6,078	15,941
四半期包括利益	516,184	1,006,689
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	516,184	1,006,689

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

該当事項はありません。

(会計方針の変更等)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)
減価償却費	266,565千円	326,761千円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2018年6月26日 定時株主総会	普通株式	1,089,190	35.00	2018年3月31日	2018年6月27日	利益剰余金

当第1四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年6月25日 定時株主総会	普通株式	1,244,786	40.00	2019年3月31日	2019年6月26日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					
	シュクレイ	ケイシイシイ	寿製菓・但馬寿	販売子会社	九十九島グループ	計
売上高						
外部顧客への売上高	2,686,772	2,348,205	1,572,197	1,341,875	590,895	8,539,944
セグメント間の内部売上高又は振替高	31,039	153,853	821,856	5,264	104,229	1,116,241
計	2,717,811	2,502,058	2,394,053	1,347,139	695,124	9,656,185
セグメント利益 (は損失)	260,699	242,922	204,271	99,127	95,181	711,838

	その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結損益 計算書計上額(注)3
売上高				
外部顧客への売上高	61,197	8,601,141	-	8,601,141
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	1,116,241	1,116,241	-
計	61,197	9,717,382	1,116,241	8,601,141
セグメント利益 (は損失)	20,335	691,503	138,430	829,933

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、損害保険代理業及び健康食品事業並びに海外(台湾)における菓子事業が含まれております。

2. セグメント利益(は損失)の調整額138,430千円は、当社とセグメントとの内部取引消去額299,370千円、セグメント間取引消去額6,599千円、たな卸資産の調整額1,588千円、各報告セグメントに配分していない全社費用 169,127千円であります。全社費用は、主に提出会社におけるグループ管理に係る費用であります。

3. セグメント利益(は損失)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					
	シュクレイ	ケイシイシイ	寿製菓・但馬寿	販売子会社	九十九島グループ	計
売上高						
外部顧客への売上高	3,509,435	2,772,031	1,828,960	1,601,930	656,331	10,368,687
セグメント間の内部売上高又は振替高	115,595	105,580	861,152	4,453	403,164	1,489,944
計	3,625,030	2,877,611	2,690,112	1,606,383	1,059,495	11,858,631
セグメント利益(は損失)	547,166	250,616	347,026	162,516	101,377	1,408,701

	その他(注)1	合計	調整額(注)2	四半期連結損益計算書計上額(注)3
売上高				
外部顧客への売上高	257,938	10,626,625	-	10,626,625
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	1,489,944	1,489,944	-
計	257,938	12,116,569	1,489,944	10,626,625
セグメント利益(は損失)	29,793	1,378,908	176,032	1,554,940

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、損害保険代理業及び健康食品事業並びに海外(台湾及び香港)における菓子事業が含まれております。

なお、当第1四半期連結累計期間より、前連結会計年度に連結の範囲に含めましたHoney Sucrey Limited(香港)が含まれております。

2. セグメント利益(は損失)の調整額176,032千円は、当社とセグメントとの内部取引消去額362,643千円、セグメント間取引消去額6,370千円、たな卸資産の調整額4,663千円、各報告セグメントに配分していない全社費用197,644千円であります。全社費用は、主に提出会社におけるグループ管理に係る費用であります。

3. セグメント利益(は損失)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(金融商品関係)
著しい変動がないため、記載しておりません。

(有価証券関係)
著しい変動がないため、記載しておりません。

(企業結合等関係)
該当事項はありません。

(1株当たり情報)
1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)
1株当たり四半期純利益金額	16円39銭	32円86銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額 (千円)	510,106	1,022,630
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期 純利益金額(千円)	510,106	1,022,630
普通株式の期中平均株式数(株)	31,119,712	31,119,657

(注)潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)
該当事項はありません。

2【その他】
該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2019年8月5日

寿スピリッツ株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 篠原 孝広 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 古川 譲二 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている寿スピリッツ株式会社の2019年4月1日から2020年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（2019年4月1日から2019年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（2019年4月1日から2019年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、寿スピリッツ株式会社及び連結子会社の2019年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。